

FGC NEWS

No.5 September 2014



一般財団法人 世界こども財団
FGC ~Foundation for Global Children~



海外支援活動

- ミャンマー、教育・保健医療分野への支援を拡充
- アフリカの小国、エリトリアへの支援活動を本格化

東日本大震災支援活動

- 4回目を迎えた住民の健康診断・健康相談
- こどもたちの笑顔のために「北の大地に会いに行こう」「サッカー交流」を開催



写真（上から）

- エリトリアのこどもたち
- ミャンマーの孤児院のこどもたち
- 帯広で「ふわふわドーム」を楽しむ福島のこどもたち
- 大磯でのサッカー交流イベントに参加した8チームのこどもたち

新理事長からの メッセージ

理事長 江口研二



2014年春、土屋了介前理事長の後任として世界こども財団の理事長を拝命しました江口研二です。一言ご挨拶をさし上げたいと思います。

こどもたちは無限の可能性を秘めています。世の中にはその可能性を活かす機会をみつけないことのできないこどもたちが数多くいます。

我々は、いろいろな活動を通じて、こどもたちが自分たちの可能性を広げていけるような機会を少しでも作ろうとしています。

こどもたちが、各々に、その多様性を開花させ、また次代のこどもたちへ、バトンを渡し、未来のこどもたちへの支援の輪が広がり続けることを目指しています。

豊かな感性、鋭い知性、生き物を思いやる心などを育む教育を応援することにより、真っ白な無地のキャンバスにさまざまな生き方を自分たちの力で描いてもらうことが、私たちの願いです。

未来への架け橋となるこどもたちをもっと応援してゆきたいと思います。

今後ともよろしくお願い申し上げます。

2014年4月 役員改選に伴い、新理事長・役員が決まりました

理事長	江口 研二	帝京大学医療共通教育センター
専務理事	宮澤 保夫	星槎グループ 会長
理事	土屋 了介	地方独立行政法人神奈川県立病院機構 理事長
理事	上田 眞理	NPO 法人健康医療開発機構 常任幹事
理事	清水 竜一	日総工産株式会社 代表取締役社長
理事	土屋 恵三郎	星槎グループ スポーツ振興室長
監事	久保 光雄	みらいコンサルティング株式会社 代表取締役社長
監事	堤 淳一	丸の内中央法律事務所 共同代表
評議員	宮澤 幸子	学校法人国際学園 理事
評議員	木内 孝	株式会社イースクエア 代表取締役会長
評議員	色平 哲郎	佐久総合病院 地域医療部 地域ケア科医長
評議員	加藤 登紀子	歌手
評議員	高橋 謙	ベーカー＆マッケンジー法律事務所 国際弁護士
評議員	リップ 雅映子	株式会社 SUI Associates 代表取締役
評議員	井上 一	学校法人国際学園 理事長

南相馬市の 小学校での取り組み

訪問校の現状

震災 2 年目の 2012 年 4 月から福島県南相馬市の小学校でカウンセリング活動を開始しました。市立鹿島中学校の校庭に建つ仮設校舎内の小高小学校、金房小学校、鳩原小学校です。2013 年度から同じ仮設校舎に福浦小学校が加わり、現在 4 校を担当しています。1 階の小高小児童 97 人（震災前は 387 人）と 2 階の福浦小・金房小・鳩原小の児童 89 人（震災前は 3 校合算 330 人）が通学しています。仮設内には校長、教頭、養護教諭が各校 1 人ずつおり、協力体制を取りながら各校の伝統や方針を守り、学校運営して行くのは前例がなく大変なことだと思います。

活動内容

主に、①授業中の行動観察、学習支援 ②休み時間を使って個別面談 ③放課後に担任とのコンサルテーションを行っています。

一昨年、昨年度とも 1 学期に職員全員への個別カウンセリングを行ないました。大変な状況は皆同じだから自分だけ弱音を吐くことができないと思っている方が多く、自身の中に溜め込んでいます。家や母校にいつ戻れるのか見通しが立たない中での生活に疲れを感じる一方、職場に来れば忘れられるという複雑な心境は月日が経つにつれて大きくなっているようです。また、合同での学級運営に先生方が戸惑いを感じている事もわかりました。

児童は 4 ～ 6 年生の個別面談を実施しました。震災や津波の影響で眠れない、怖いといった直接的な声はありませんでしたが、広い家から仮設住宅での暮らしによる行動の制限や、家族構成の変化、また大人が感じる将来への不安がこどもに伝わるケースなど、間接的に震災はこどもたちに影響を与えています。

インタビューで相手を知ろう（SST 授業）



武道場で身体ほぐし・バランス（SST 授業）

保護者はこどもの発達に関する相談が主でした。しかし、継続して行なううちに徐々に自分自身の悩みを語り始める方や、震災当日の状況や怖かった気持ち、将来の不安などを涙して話し始める保護者もいました。

2 学期のはじめに学年別に SST を兼ねた学級活動（体作り運動を通して関わり方を学ぶ活動）を行ないました。低学年は「アンガーマネジメント（怒りのコントロール）」、中学年は「ふわっと言葉とちくっと言葉」、高学年は「アサーティブな言い方（相手を否定せず自己主張する方法）」を中心に展開しました。

今後について

震災による不安定な状況下、保護者も含め、気軽に相談できる環境づくりを学校と連携して作って行きたいと思います。また面談や SST 授業を通してこども同士の関わり方だけではなく、先生とこども、家族とこどもについても良い関係が結べるようにサポートできればと考えています。

相馬市で 健康診断・健康相談を実施

福島県相馬市では、被災された方々や仮設住宅入居者を対象とした健康診断を2011年より毎年実施しています。今年も7月19日から24日、玉野公民館、相馬市保健センター、仮設住宅がある大野台サポートセンター、柚木サポートセンターの4カ所で健康診断を行いました。南相馬市、飯舘村、浪江町から避難されて相馬市の仮設住宅（大野台）に入居されている方々も含め、今回は6日間で565人の方々が受診されました。

診察に当たった医師は、東京大学医科学研究所の上昌広特任教授をはじめとして、亀田総合病院の小原まみ子先生、鈴木真先生、東京大学医学部の渋谷健司先生、神奈川県立病院機構の松村有子先生、浜松医科大学の大磯義一郎教授、帝京大学の小林一彦先生、慶應義塾大学の杉原正子先生、ときわ会常盤病院の松野由以先生、仙台厚生病院の宮坂政紀先生、東京大学医科学研究所の坪倉正治先生、京都大学医学部附属病院の西川佳孝先生、それに地元の相馬中央病院の標葉隆三郎院長、越智小枝先生、森田知宏先生に相馬市医師会の方々です。この他、東京大学医学部と浜松

医科大学の学生の皆さんがボランティアで参加してくれました。

この健康診断の特長は、ロコモティブシンドローム（生活不活発病）健診があることです。65歳以上の高齢者および希望者を対象とした運動器健診で、男性155人（うち65歳以上は85人）、女性270人（うち65歳以上は152人）の男女合計425人が受診し、昨年の338人を随分と上回りました。

健診をされた九州大学の石井武彰先生によると、昨年より健康状態が良くなっている印象をもったそうです。「立ち上がり」検査では各年代の半数以上の方が平均値を上回る結果が出ました。また、相馬市玉野地区では農作業の再開等々の理由により運動能力も震災前に戻りつつあります。

受診された方々は総じて体重が減り始めていました。これは気持ちに余裕ができ、定期的な運動ができるようになったことに起因するそうです。診察をされた医師の方々からは「笑顔が多く見られた」と聞きました。住居の目途がたったことや新居に移り住んでいるなど安心材料が増えてきたようです。



健診の様子



理学療法士による健康相談

福島県相馬市の健康診断を終えて

東京大学医科学研究所 特任教授

かみ
上 昌広

7月19日から24日にかけて、相馬市の仮設住宅入居者に健康診断を行いました。東日本大震災以降、恒例となっており、今年で4回目です。

今年も星槎グループ・FGC 世界こども財団の皆さんには、健診会場の設営、運営から健診に参加する医療関係者の宿泊・食事の世話など、大変お世話になりました。今年の健診を何とか無事に終えることが出来たのは、ひとえに皆さんのお陰です。この場を借りて厚く御礼申し上げます。

今年の健診の特徴は、受診者の方々の表情が明るくなっていたことです。東日本大震災直後の、皆が無口で緊張感に包まれていた時とは対照的です。相馬市の復興が順調に進んでいることを実感します。

このような状況は健康状態にも影響します。震災以降、増加していた体重が減少に転じ、高血圧も改善していた方が多かったように感じます。まだ、血液や尿検査など、十分に分析できていませんが、この分なら糖尿病など生活習慣病も改善している可能性が高いと感じています。生活環境やストレスは、健康に強く影響するこ

とを実感します。

相馬市の仮設住宅は、今年度末を目途に閉鎖の「予定」です。復興住宅の整備が進んでおり、移住が予定されているからです。

ただ、これは「予定」に過ぎません。相馬市の仮設住宅に住んでいる方々の中には、原発周囲の双葉郡や、放射性物質で汚染された飯舘村から避難してきた方々も含まれます。このような方々は、まだ復興の目途は立っていません。表だって不安を口にすることは稀ですが、診察中の会話では、その言葉の端々に不安がのぞき見えます。「相馬の人はいい。自分たちはどうしていいか、わからない」と泣き出す人もいました。被災地が置かれた状況は多様です。

来年度以降、相馬市の仮設住宅が、どのような形で運営されるのかはわかりません。ただ、少なからぬ人が悩みを抱え、健康問題に直面しているでしょう。どのような形にせよ、私たちの研究室は、被災者の方々に寄り添っていきたいと考えています。

今後とも私たち、ひいては相馬の皆様にお力添えをいただければ幸いです。何卒よろしくお願い申し上げます。



上昌広先生



健診を行った医師、学生ボランティアの皆さんと FGC スタッフ

5 回目を迎えた 「北の大地に会いに行こう in 帯広」

帯広市との共同事業

8月4日から10日、東日本大震災で被災した福島県相馬市のこどもたちを北海道に招待する「北の大地に会いに行こう in 帯広」を実施し、小学3年生から中学3年生の39人が帯広市を訪れました。帯広市と星槎グループとの共同事業で、被災地のこどもたちを帯広に迎えるのは今回で5回目になります。

体験活動のメインは川遊び等の野外活動です。震災から3年が経過した今でも屋外で自由に遊ぶことが許されない被災地のこどもたちに、外で思いっきり走り回り、思いっきり遊んで楽しんでもらいたいという思いがありました。他にもソーセージづくり、馬とのふれあい、帯広にしかない「ばんえい競馬」見学や、帯広名物豚丼づくりなどを行い、北海道帯広の場所文化を体感してもらいました。

さまざまな体験活動を通して関わり合いが生まれ、小学生も中学生もボランティアで参加した星槎の高校生も自然に世代を超えた仲間づくりができていました。人との違いに気づいたり自分の役割を理解したり、お互いを認め合うという体験ができたのではないのでしょうか。

参加者の感想

- ・ 私たちが楽しく過ごせたのも、けがなどをしなかったのも、全部裏で誰かが働いているからなので心から感謝したいと思います。(中3)
- ・ 1番楽しかったのは川遊びです。福島では放射線があって川に入れません、この旅行では遊べてよかったです(小3)。
- ・ この1週間で良かったと思ったことは、部屋の人全員の名前を覚えて、部屋の人全員と話したことです。うれしかったです(小5)。
- ・ この1週間のことは一生忘れません。忘れたくありません。(小5)

こどもたちが私たちにしてくれた、とびきりの笑顔、好奇心に満ちあふれた眼差し。私たちに与えてくれた、楽しい時間、笑顔と勇気。被災地のこどもたちが、これからも仲間を大切に、感謝の心を忘れずに、健やかに成長していくてくれることを心から願っています。



ソーセージづくり



川の自然観察



馬に乗るこどもたち

福島県相双地区のこどもたちを 大磯に招待

4年目を迎えた東日本大震災にかかわるサッカー交流支援活動

福島のこどもたちとのサッカー交流を通じた支援活動は、今年で4年目を迎えます。

8月9日～10日、福島県相双地区のサッカー（ジュニア）チームの中から選抜された相双トレセンのこどもたち41人に監督コーチ、保護者29人を加えた70人を星槎湘南大磯キャンパスに招待しました。

9日は相双トレセンの3チーム、神奈川県内から茅ヶ崎トレセン2チーム、西湘ジュニア、FC

アルファ、星槎からOSAクラブの計8チーム、総勢約220人が参加して、トーナメント戦「星槎こゆるぎカップ」を開催しました。こどもたちはバスでの長旅に疲れも見せず、グラウンドでボールを蹴りたくて昼食もそこそこにソワソワ落着きません。試合の結果は茅ヶ崎トレセンが優勝し、相双トレセンは3位に終わりました。

今回も試合の審判や運営のサポートには、東京大学サッカー部の学生4人と社会人1人がボランティアで協力してくれました。学生たちは夜、小学生の勉強を見たり枕投げで一緒に遊んだりしました。

保護者の皆さんにはヨガのレッスンを行い、家庭でもできる呼吸法を学ぶなどリラックスしていただきました。ヨガは「こどもが怪我をしない体づくり」やリラックス法、集中力を身につける練習法としてサッカー指導にも導入しています。

翌日10日はこどもたちが一番楽しみにしていた海水浴を予定していましたが、台風11号の接近に伴い残念ながら中止しました。代わりにグラウンドでサッカーの練習です。激しい雨の中、全員でキーパー練習。人工芝の上を次々にスライディングしてみたり、みんなピシヨピシヨになりながらも楽しんでいました。

あっという間の2日間。ボランティアの東大生からは「こどもたちからパワーを貰えます。是非次回も参加させて欲しい」との感想も聞かれました。

「まだ津波を思い出して学校のプールに入れない」「長いトンネルなど暗いところに長時間いると怖い」という子が数人いました。こどもたちの心はまだケアを必要としています。

今後も皆様のご支援とご協力をよろしくお願い致します。



キーパー練習



雨にも負けず元気に練習に励むこどもたち



保護者向けのヨガ教室

宮澤保夫専務理事は昨年11月に続き、3月14日から22日までミャンマーを再訪しました。滞在中はミャンマー政府各省庁との会談や視察を精力的にこなしました。

通信・情報技術省：

ミヤッ・ヘイン大臣と会談し、同省のトレーニングセンターにノートブック型パソコン及びプリンター、各6台を寄贈しました。併せて同センターでの人材育成及び今後の継続支援について意見交換を行いました。



通信・情報技術省ミヤッ・ヘイン大臣（左）と会談

科学技術省：

1月に工科高校生5人と引率教師1人を日本に招待して行った「ジャパン・スタディー・プログラム2014」について、コー・コー・ウー大臣に説明し、報告書と滞在記録DVDを直接



科学技術省コー・コー・ウー大臣（右）と会談

手渡しました。大臣からは、「日本での体験は参加者にとって将来の大きな財産になった」と大いに感謝されました。そして、より密度の濃い研修プログラム「インターンシップ・プログラム」を大学生および大学講師に本年末に提供することになりました。

保健省：

ペ・テ・キン大臣及びテイン・テイン・タイ副大臣と会談し、同省が行っているスクール・ヘルス・プログラムへの支援に対し丁寧な感謝



保健省テイン・テイン・タイ副大臣（左）と会談

の言葉をいただきました。今年度も手洗い石鹸の寄贈を約束しました。また、昨年寄贈を約束し、今春ミャンマーに届けた救急車をより効率的に役立てるため、無線中継の基地となるタワーを建設する件を話し合いました。さらに、保健省の紹介でヤンゴン市内の病院とネピドー近郊の孤児院を訪問しました。

北オカラパ総合病院

成田赤十字病院の加藤院長等と視察しました。同病院は成田空港に近く、感染症の国内流入を水際で食い止める役目を担っています。その関連で日本人渡航者の増えているミャンマーと感染症対策で協力したいとの意向があり、宮澤専



北オカラバ総合病院の結核患者の非隔離病棟
(奥が普通病棟、手前が結核病棟)

孤児院内の教室



孤児院内の大部屋

務理事が協力し、保健省を通じて今回の北オカラバ総合病院の視察が実現しました。このあと、成田赤十字病院との協力関係を強め、医者と看護師 2 人ずつを日本に招待し、感染症（特に院内感染防止）研修を行いました。

孤児院

The Garden for Youth Development

この孤児院は仏教寺院が開設し、300 人以上の孤児が生活しています。設備はある程度整っ

ていましたが、今後の課題は、職業訓練の機会を設け、運営費を自分たちで稼げるような仕組みを作り、孤児たちの自立につなげることです。世界こども財団としてその実現に向け、保健省とさらに協議していきます。

「インターンシップ・プログラム」をご支援ください！

ミャンマーの大学生 5 人と引率講師 1 人を日本に招待し、日本の企業や機関で、彼らの専門分野あるいは将来の職業に役立つ体験をしてもらうことを目的としたプログラムです。これが日本理解の機会となっており、将来、日本とミャンマーの関係強化に資する人材養成につながることを願っています。

科学技術省では既に研修生となる大学生を選抜しており、12 月に 2 週間の予定で実施します。参加者の専攻を考慮しつつ、より充実した研修内容を提供するための受け入れ費用をご支援いただきたく、寄付を募っています。皆様からの温かいご理解により、本プログラムを支えていただければ幸いです。

ご協力、よろしくお願いいたします！

【ご寄付受付口座】

ゆうちょ銀行 口座名 一般財団法人世界こども財団
(郵便局から) 振替口座 00240-1-116684
(銀行から) ○二九(ゼロニキュウ)店 (当座) 0116684

昨年ブータン王国の新首相に選出されたツェリン・トブゲ氏は、宮澤専務理事と長年の親交があります。今年2月にもブータンで首相と会談し、6月に首相が来日された際も、都内でミーティングを行いました。お互い旧知の間柄と言うこともあり、この会談は極めて実務的なものとなり、以下の事項について突っ込んだ議論が行われました。

- ①ブータン医科大学構想支援
- ②日本での農業研修の実施
- ③ブータンに農業学校を創設
- ④ブータンに日本スタイルの学校創設
- ⑤東京オリンピック・パラリンピック参加支援



ブータン王国首相（左）と

F G C 関 連 書 籍



復興は教育からはじまる

細田満和子・上昌広【編著】
明石書店

星槎グループ・世界こども財団の東日本大震災の支援活動の記録を中心にまとめた本。大震災をきっかけに、これまで出会うはずのなかった人々が福島浜通りに

集結し、立場や専門を超えて、医療・看護から子どもの心のケア、学校の復興にと地域の実情に合った形で活動が展開されました。本書には、福島県相双地区の中学校や高校の先生も寄稿しており、現場の様子を伝えています。



1993年、正式に独立したエリトリアは世界で最も若い国の一つです。紅海からインド洋へ抜ける戦略上の要衝に位置するこのアフリカの国は、独立後も様々な紛争に巻き込まれ、国民生活、特にこどもたちの生活は依然として厳しい状況にあります。

宮澤専務理事は1993年に初めてエリトリアを訪問しました。これまで2回同国を訪れており、小さな支援を続けてきました。

2020年の東京オリンピック・パラリンピック開催が決定したことに伴い、当財団ではエリトリア支援をスポーツ面からスタートし、徐々にこどもたちの教育、公衆衛生環境向上のための支援活動まで広がっていきます。

まずは現地の実情を把握するため、9月中旬から下旬にかけて、宮澤専務理事が先の第2次安倍改造内閣で外務副大臣に就任された城内実衆議院議員、外務省職員等と同国を視察訪問します。

本プロジェクトは、日本国政府、JOC等公的機関の協力を得て展開していくことになります。また、本プロジェクトは付随的活動を通じ、広く世界へ広報し、ご支援を寄付の形でお願いする予定です。



エリトリア駐日大使（左）と城内実副大臣（右）と

広がる支援の輪 —福島の子供たちの笑顔のために—

「日仏友好チャリティー・コンサート in 横浜」



星槎大学特任准教授の野口桂子先生が中心となって主催する「日仏友好チャリティー・コンサート in 横浜」が、7月24日に関内ホール(小ホール)で開催されました。

野口先生は福島の子どもたちを支援したいと、本コンサートを企画されました。そして当財団が行っている、福島県相馬市の子どもたちを対象としたサッカー教室や交流イベントの活動にご賛同いただき、コンサート収益金 180,521 円を寄付していただきました。

当日はステージ上で、当財団の江口研二理事長からの感謝のメッセージが披露されました。皆様からの貴重なご厚志は、大切に活用させていただきます。

当日は約 200 人のお客様が来場。第 20 代シャンソン大使、ジャン・ピエール・メナジェ氏(アコーディオニスト)を迎えて、総勢 12 人の

出演者によるパリの香りいっぱいの華やかなシャンソンコンサートとなりました。

当財団の趣旨にご賛同いただきました野口先生をはじめとする出演者の皆様には、心より感謝申し上げます。ありがとうございました。



主催者の野口先生(左)から寄付の目録をいただき、江口理事長のメッセージを代読する財団事務局の小泉博



出演者の皆さん(中央がメナジェ氏)

歌手活動 50 周年開幕！ 加藤登紀子さんの「ほろ酔いコンサート 2014」 世界こども財団への寄付型チケットのご案内



当財団の評議員で星槎大学客員教授の加藤登紀子さんの「ほろ酔いコンサート」が、今年も 11 月から年末にかけて全国各地で開催されます。その先陣を切って行われる札幌と旭川のコンサートでは、HBC 北海道放送(株)様など主催者様のご厚意により、チケット売上の一部が当財団に寄付される「寄付型チケット」が発売されています。

コンサート情報

<http://www.tokiko.com/concert-info>

11月6日(木) 18:30～(札幌コンサートホールKitara)

11月8日(土) 15:30～(旭川市公会堂)

お問い合わせ

HBC 北海道放送(株)メディアビジネス局事業部
TEL. 011-232-1373 (担当: 大神)

ハガキ1枚が社会貢献につながります! 「寄付モノ」で世界の明日を創る子どもたちをサポートしてください

子どもたちを笑顔にし 将来に灯を灯すことは 世界の未来をつくることです。
世界の子どもたちの笑顔のために 皆様のご支援 ご協力をお願い申し上げます。

未使用のハガキ・書き損じハガキを大募集

世界子ども財団では、年末年始にかけて「ハガキ」の寄付モノを集中的に募集します。
余った年賀ハガキや喪中ハガキ。未使用のハガキであれば古いものでも構いません。
書き損じたハガキも捨てずに、世界子ども財団（下記住所）宛にお送りください。
皆さまからご寄付いただいたハガキは、「寄付金」となって活動資金に繋がります。



世界の子どもたちのために、ぜひご協力下さい。

2014年1月～8月「寄付モノ・寄付コラボ商品」の報告

寄付モノ	(円)	寄付コラボ商品	(円)
本（チャリボン）	253,887	「地球物理学大図書」（東京書籍）	2,000
切手・ハガキ類	143,188	写真集「大磯の蝶」	700
衣類	8,478	加藤登紀子チャリティコンサート売上より	23,000
カード類（テレカ・図書カード・各種金券）	19,000	自動販売機売上より 35 台分	929,671
		「ミネルバのふくろうと明日の日本」書籍	39,384
合 計	424,553	合 計	994,755

**全国の皆様からの貴重なご厚志に心より感謝申し上げます。
いつもありがとうございます。**

【ご協力いただいている企業・団体様（順不同）】 2014年3月～8月

日産自動車(株)●(株)横浜リテラ●(株)横浜ドライ●オリンパス(株)●GEヘルスケア・ジャパン(株)●医療法人社団 KNI 北原国際病院
鈴廣かまぼこ(株)●(株)ニッポン放送●(株)ファミ●大磯ロータリークラブ●大磯町●大磯町郷土資料館●神奈川県
神奈川県立平塚工科大学●ミャンマー大使館●日本ミャンマー協会●(株)バリューブックス●アマチュア無線関係者の皆様
大磯町グラウンド・ゴルフ協会●ダイードリンコ(株)●西武商事(株)●コカ・コーラウエスト(株)●コカ・コーラセントラルジャパン(株)
北海道コカコーラボトリング(株)●北海道キリンビバレッジサービス(株)●東京キリンビバレッジサービス(株)●エフヴィセントラル(株)
●(株)ベネフレックス●北陸富士ベンディング(株)●北海道ベンディング(株)●(有)安田コーポレーション●大蔵屋商事(株)
サントリービバレッジサービス(株)●(有)杉山飲料●国際ソロプチミスト二宮●(株)DOE●コグメド・ジャパン(株)
日仏友好チャリティー・コンサート実行委員会●アイ・ネット・リリー・コーポレーション(株)●協和発酵キリン(株)

この他、個人、企業の皆さまから多大なるご協力をいただいております。誠にありがとうございます。



2014年9月26日発行

一般財団法人 **世界子ども財団**

〒259-0111 神奈川県中郡大磯町国府本郷 1805-2（星槎グループ内）

TEL. 0463-71-6046 FAX. 0463-60-3507 E-mail: fgc@fgc.or.jp

ホームページ: <http://www.fgc.or.jp> Facebook: 「世界子ども財団」で検索!

印刷: フルサワ印刷株式会社 制作: 岡村直実 (JC ユニット)

